

かな部

北川詩雪

外出を控えること早七カ月。久しぶりの書展鑑賞で新装の京セラ美術館に向いた。直後に書作に取り組むと楽しく筆が動くと感じた。やはり刺激は大事と思う。在宅でも読書や、書画工芸品の図録、ビデオ鑑賞等々、刺激は色々。かつて読んだ「高村光太郎 書の深淵」を見つけ再度手に取る。「書を見るのはたのしい。画は見飽きることもあるが、書はいくら見てもあきない。またいくどくり返してみてもそのたびに新しく感ずる。」と晩年に論じている。この言葉に力をもらう。この域に達することを目標に日々努力、ですな。

かな部 条幅課題

A 東の野に炎の立つ見えて

反り見すれば月西渡ぬ

(柿本人麿)

・東方の野には日の出に先立つ陽炎のゆらめくが見え、振り返ってみると、西方には月が山の端に傾いている。

B 石路の花心の崖に日々ひらく

(横山白虹)

・日々ひらく黄色い石路の花は、心に開く希望の象徴のようだが、というのである。

(しめきり)…………十一月十七日)

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

※五段以上の方はA・Bの両方向同時に出品できます。

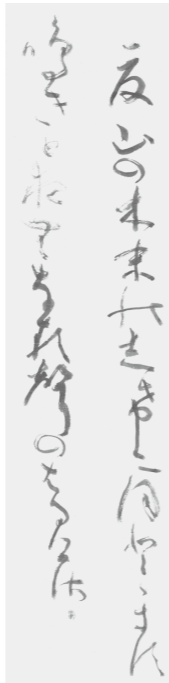
※二点出品の場合、出品券の下部にA・Bを明記のこと。

(選評)

師範・準師範の部

昇陽君 文字の特性を活かし、外への拡がりを考えた作。見事。翠柏君 線質、潤濁の変化、構成の全てが巧みで、意欲的な快作。籬東君 転折部の滑らかな丸みにより、流れを表出した安定の作。桂華君 漢字と変体かなが効果的に使えた。前半部の収筆を静かに。栖邨君 熟達の筆捌きと行の重ね方に感心。墨色も美しい。

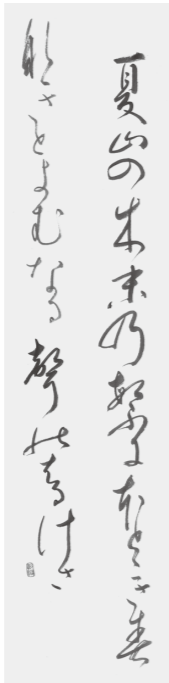
(助教以下の部)



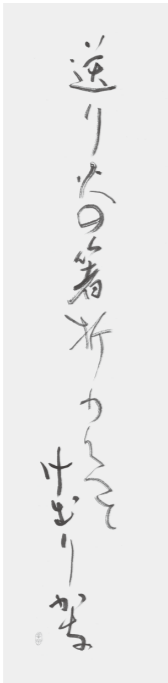
能勢玄海



与十田麗峰



佐々井彰祐



後藤幸子



海野雨泉

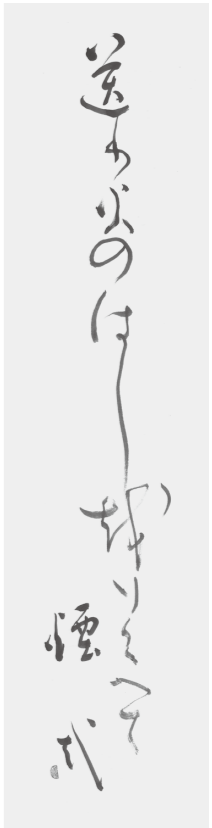
流麗な構成で古筆の風趣あり。中央を広くして大きく見せよう。

線が冴えている。この凛とした線が緊張感を生んだ佳作。

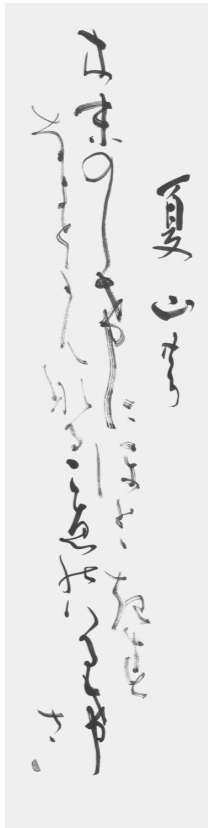
構えが大きく躍動感あり。二行目上部の渴筆部は筆を開けて大きく。

文字の長短、大小変化が的確で安定の作。転折部に丸みを。

手慣れた筆致で独特の世界を表現。字間を詰めた事で快活な印象。



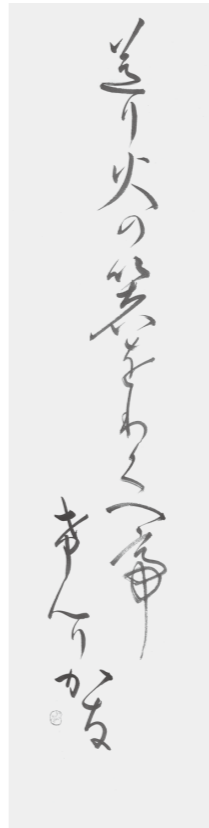
永田昇陽



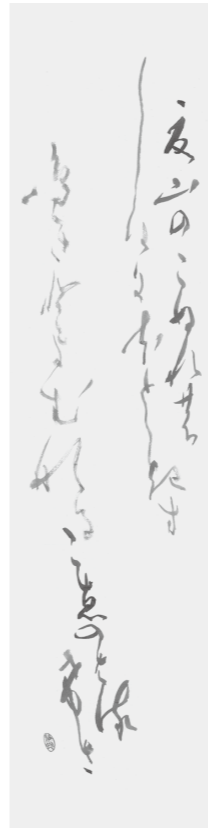
畑下翠柏



服部籬東



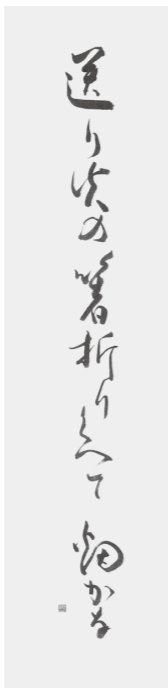
増田桂華



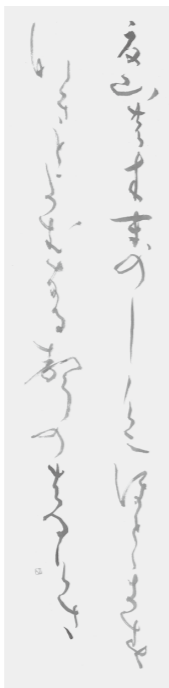
山本栖邨



内田真由美



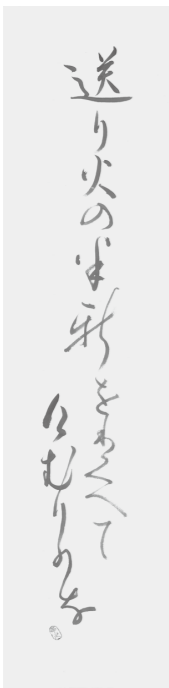
舟木春甫



穴田小糸



山中心翠



永島華久

明確、誠実な作で魅力あり。漢字部「送・火」が固いので工夫を。

素直な構成に好感。二行目上部は大きく大きく。落款(押印)は必須。

しっとりした筆運びで風情あり。長い横画は流れを止めるので注意。

落ち着いた書きぶり。程よい太さが余白の白場を引き締め美しい。

縦への流れが美しく心地よい。細い線での連綿を控え目に。